

光一中だより

教育目標

- 自主的に学び、考え、実行する人
- 心豊かで、ともに助け合う人
- 健康で、勤労を愛する人



練馬区立光が丘第一中学校
校長 山谷 安雄
令和4年度 第1号
令和4年4月12日

2年間のブランクを取り戻す

校長 山谷 安雄

2020東京オリンピックと2022北京冬季オリンピックを令和3年度中に行ったのがかなり昔のような気がしてしまいます。3月には84名の卒業生を送り出し、4月に新入生68名をむかえ、新たなスタートを切ったところです。3年生には機会があるごとに自分を変えていくように話しています。それが、自分の将来に結びつくことを言っています。

ところで、日本で新型コロナウイルス感染症がはじまったのが、令和2年の3月でした。そして全国一斉休校が始まりました。そして、令和2年度の4月の始業式後に再度、一斉休校になりました。6月から分散登校で学校がスタートして短い夏休みを経て多くの学校行事が中止される中で、令和2年度が終わりました。令和3年度も感染対策で多くの行事が中止や延期になりました。そのなかで、運動会に変わる学年別スポーツ大会と3年生の修学旅行1泊2日と1年生と2年生の校外学習が数少ない実施ができた行事でした。

さて、2年間本校では運動会と文化発表会・合唱コンクールができませんでした。今の3年生は中学校に入学して実施していない行事になってしまいました。中学校では、1年生の時2年生の時に最上級生の姿を見て、たった1年か2年の違いなのに3年生が大人に見えて、なんとか近づこうと2年間で過ごしていました。見本となる最上級生をまねるようにして行事だけでなく部活動や普段の授業の様子からいろいろな事柄を吸収していったと思われます。そして、令和4年度がスタートするにあたって、学校では大きな壁にぶつかっています。中学校の行事を一度も経験したことのない3年生が牽引しなければならないということです。自分がイメージする目標がない中での実施は、生徒にとって大きな不安であると考えられます。

そして、そんな中での4月のスタートです。まず、6月の運動会です。私は新しい光が丘第一中学校の運動会を作ることが大事であると考えます。今までとは違った生徒すべてが楽しめる今の時代にあった運動会を模索することからはじめたいと考えます。上のお子さんをおもちの家庭にとってはある意味で物足りなさや規律のなさを感じるかもしれませんが、今の時代にあった運動会をこれから創っていきたいとおもいます。

また、合唱コンクールも同様です。1年生のときには男子がなかなか照れて歌ってくれない。女子と男子が言い合いになるのはよくある話です。クラスによっては、女子が泣きだして本番でもクラスがひとつになれずに終わってしまうことも時々ある話です。本番当日、あの大人に見えた3年生男子が自信をもって大きな歌声を披露すると、自分の幼さに自分で気づき、やるべきことを照れてできない自分を自然と変えられるようになっていきます。2年生になって一歩成長した合唱ができるようになり、クラスによっては3年生に近い完成度の高いものが仕上がってきます。しかし、3年生にはかかないません。そして、自分自身が3年生になったとき、何を頑張れば良いかクラスの多くの方はわかっています。お互いに声を掛け合い男子と女子が協力して合唱を仕上げる事ができてきます。合唱コンクールは運動会と同じように一からスタートではありません。2年間音楽の授業では歌唱指導ができていません。マイナスからのスタートになります。これから何年間かかけて新しい光が丘第一中学校の歴史をつくり上げるつもりで生徒たちとつくり上げたいと思います。